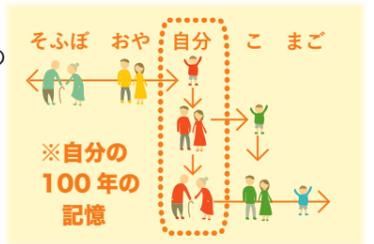




基本理念・5つの基本方針

基本理念

祖父母と一緒に感動した
この施設に、いずれ自分の
子どもとともに、さらには
孫も連れて訪れる…。
五代に渡る家族の記憶を
辿れる場所が身近にある、
ふるさと・茨城町をイメージします。



「新たな文化的施設」は、町民の文化芸術活動を支える拠点であるとともに、町役場、ゆうゆう館を含めた、このエリア全体をひとつの「フィールド」と捉え、複数の公的サービスをつなぎ、相乗効果を高めていく役割も担います。

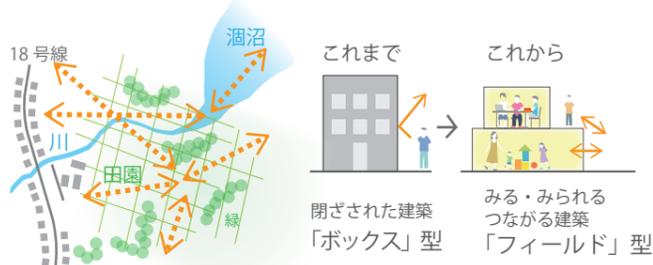
そのため、一般的に演劇・音楽等の文化鑑賞する空間には、非日常的な雰囲気が求められますが、それが過剰にならないように、日常活動を支える場としてのなじみやすさや使いやすさを併せ持つデザインとし、自発的な日常利用を促す空間づくりをめざします。

また、家族や町民同士の記憶を長きに渡ってつないでいく公共空間として、耐久性があり、メンテナンスしやすい建築づくりも追求します。

■ 基本方針 1.

みる・みられる、つながる、また来たくなる「フィールド」をつくる

周辺はのびやかで、開かれた風景がつづいています。一方、既存建築の多くはボックス型（クローズ型）で、内の活動は外から見えづらいのが現状です。内外がつながり、お互いが見える「フィールド」型（ほどよいオープン型）建築を創り、町役場、ゆうゆう館とのつながりを強化、エリア全体の価値を高めます。



■ 基本方針 2.

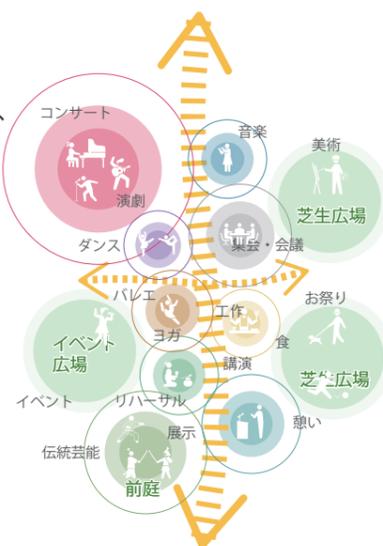
多様な交流を促す「幹空間」

1) 「かがやきストリート」

南北に施設を貫く動線としてだけでなく、町民の文化芸術活動を支える情報・交流スペースとして整備。諸室内での活動がみえるだけでなく、活動の成果を発表する掲示板や展示・書架棚を設置します。

2) 相乗効果が期待できる「諸室」

かがやきストリートに面して関連させやすい諸室を隣接配置し、利用率の向上・文化芸術活動の相乗効果を図ります。ニーズを踏まえた性能を持たせます。



■ 基本方針 3.

多様な使いこなしで盛り上がる「ホール」の可変性・拡張性

主に町民が日頃の成果を発揮できるホールとして、通常のプロセニウム形式から、平土間形式への転換を容易にして、幅広い演目やイベント等に対応します。さらに、ホワイエやロビー、かがやきストリートから諸室へと、空間を連続させた、多様な使い方も可能にします。

■ 基本方針 4.

アクティビティを生み出す「3つの広場」

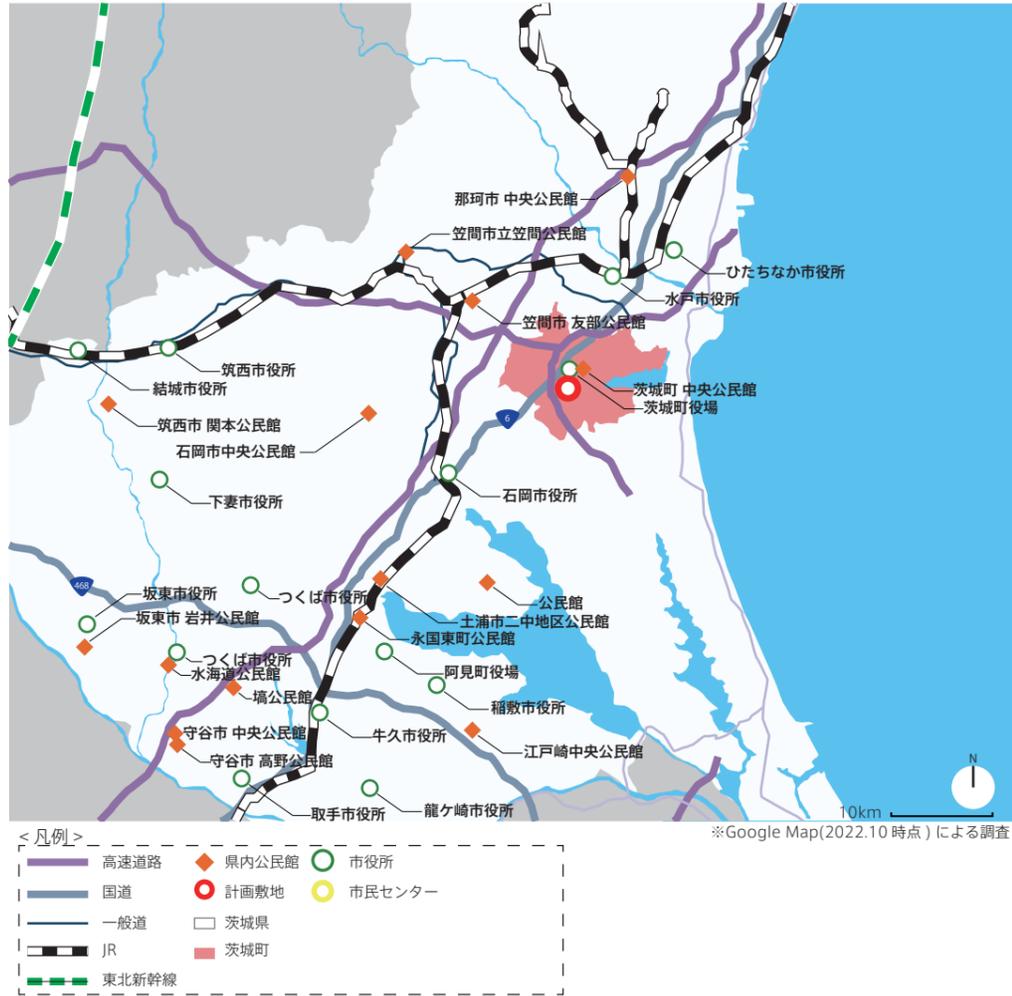
3方が建物内部とつながる「イベント広場」、いばらきまつりの主会場ともなる「芝生広場」、町役場との一体感を生み出す「アプローチ広場」。それぞれの外部空間が内部空間とつながり、多様な使い方を広げます。そして、外部空間を介して、町役場、ゆうゆう館とも行き来しやすくさせることで、エリア全体の相乗効果につなげます。

■ 基本方針 5.

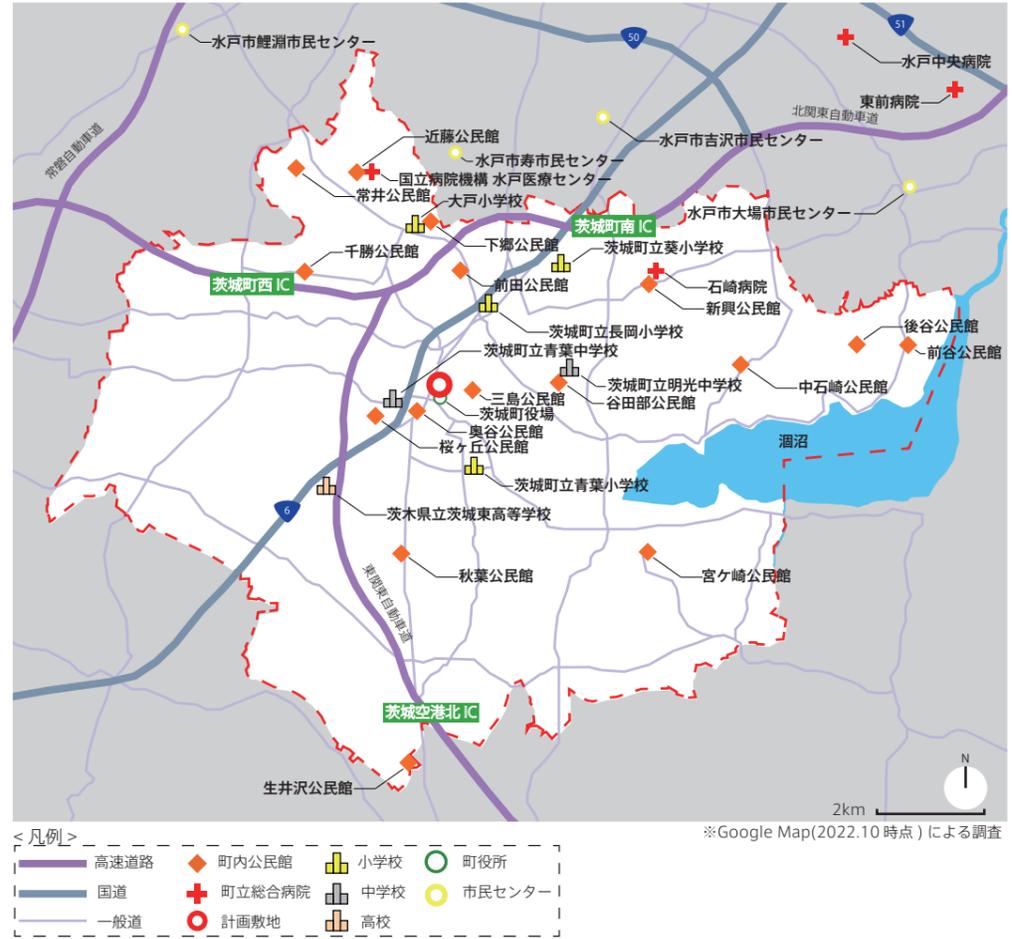
「地域の防災施設」として

日常利用のみならず、災害時にも機能する諸室の性能および内外空間の構成に配慮します。特にイベント広場は、「防災広場」として機能。雨天時でもぬかるむことのない舗装を施し、緊急車両などの寄り付きに配慮、また、かまどベンチによる炊き出しなどに利用できます。

■茨城町周辺マップ（図1）
〈学校、公民館等の分布〉



■茨城町全域マップ（図2）
〈主要施設の分布〉



計画概要

1. 敷地周辺

茨城町は茨城県のほぼ中央に位置し、涸沼をはじめとする水と緑の豊かな自然環境と県都水戸市に隣接し生活環境に恵まれ、都市部と農村部が調和した町として発展を続けています。敷地は主要幹線道路である国道6号線沿いに位置し、アクセスがしやすく、周辺には町役場庁舎、ゆうゆう館、消防署などの公共施設が集約しています。町民の利便性と施設連携の相乗効果が期待できる立地です。

2. 現状の課題について

東日本大震災により被災した茨城町立中央公民館の代替施設として、町民の文化芸術に触れる機会を創出し、新しい文化芸術創造のための環境、拠点機能が必要です。そのため、町民の多様なニーズに対応できるホール機能や公民館機能を有する文化的施設の整備が急務となっています。

3. 新施設の役割

町民協働による新しい文化芸術を創造する施設として、町民が、自由に使い方を発案し、使いこなせる「フィールド」を実現します。また、ゆうゆう館をはじめとする周辺施設との連携を強化し、町民の新たな出会いと、新たな文化芸術活動を促すための役割を担います。

4. 稼働率の高い文化的施設を目指して

①ホール機能

プロセニウム形式、平土間形式などホール形式の転換により幅広い演目やイベント等に対応。町民利用を主体とした舞台設備の配慮など、町民が使いこなせる施設とします。

②活動支援機能

既存施設の利用団体・利用状況を調査し、町民と行政のニーズに応じた諸室構成とします。かがやきストリートに面して諸室を配置することで、町民の活動がストリートにしみ出し、「みる・みられる」の関係性が相乗効果をもたらします。

③交流促進機能

かがやきストリートを中心に、ホワイエやロビー、諸室、外部の広場と連続した多様な使い方を可能にします。ひとりでもグループでも過ごすことのできる「居場所づくり」に配慮します。

④施設運営機能

運営のしやすさに配慮し、事務室で一元管理できるシステムとします。親子連れや車椅子使用者、高齢者など、不特定多数の方が利用しやすいよう、バリアフリーに留意します。

施設計画概要

【敷地概要】

- 所在地：茨城県東茨城郡茨城町 大字小堤 1070 番地外
- 敷地面積：約 10,069 m²
- 防火指定：未指定
- 用途地域：近隣商業地域 (建ぺい率 80%/容積率 200%)
- 日影規制：近隣商業地域 5.0h-3.0h (測定面 4.0m)
- 道路：北側 町道 4006 号 (幅員 11.2m) 西側 町道 4002 号 (幅員 14.0m) 南側 役場庁舎敷地内道路 (建築基準法第 42 条に該当しない)
- 地区計画：茨城町役場周辺地区地区計画区域
- 地域地区：浸水想定区域 0.5m～3.0m

【建築概要】

- 主要用途：集会場
- 階数：地上 3 階 地下 0 階
- 延床面積：約 3730 m² (駐輪場等含む)
- 最高高さ：15.7m
- 駐車場：53 台 (うち身障者用 3 台)
- 駐輪場：40 台
- 耐震安全性の分類：①構造体：II 類、②建築非構造部材：A 類、③建築設備：乙類

【構造計画概要】

- 構造種別：鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造
- 架構形式：耐震壁付キラーメン構造
- 計算ルート：鉄筋コンクリート造 ルート 1
- 耐震性能：II 類 (重要度係数 I=1.25)
- 基礎形式：杭基礎
- 垂直積雪荷重：30cm
- 基準風速：34m/s
- 地表面粗度区分：III

【給排水衛生設備概要】

- 給水方式：直結給水方式
- 給湯方式：個別給湯方式 (電気式貯湯温水器)
- 排水方式：分流式 (雨水、汚水・雑排水)
- 雨水利用：WC 排水

【空調設備概要】

- 空調方式：直膨式エアハンドリングユニット、空冷ヒートポンプマルチエアコン

【電気設備概要】

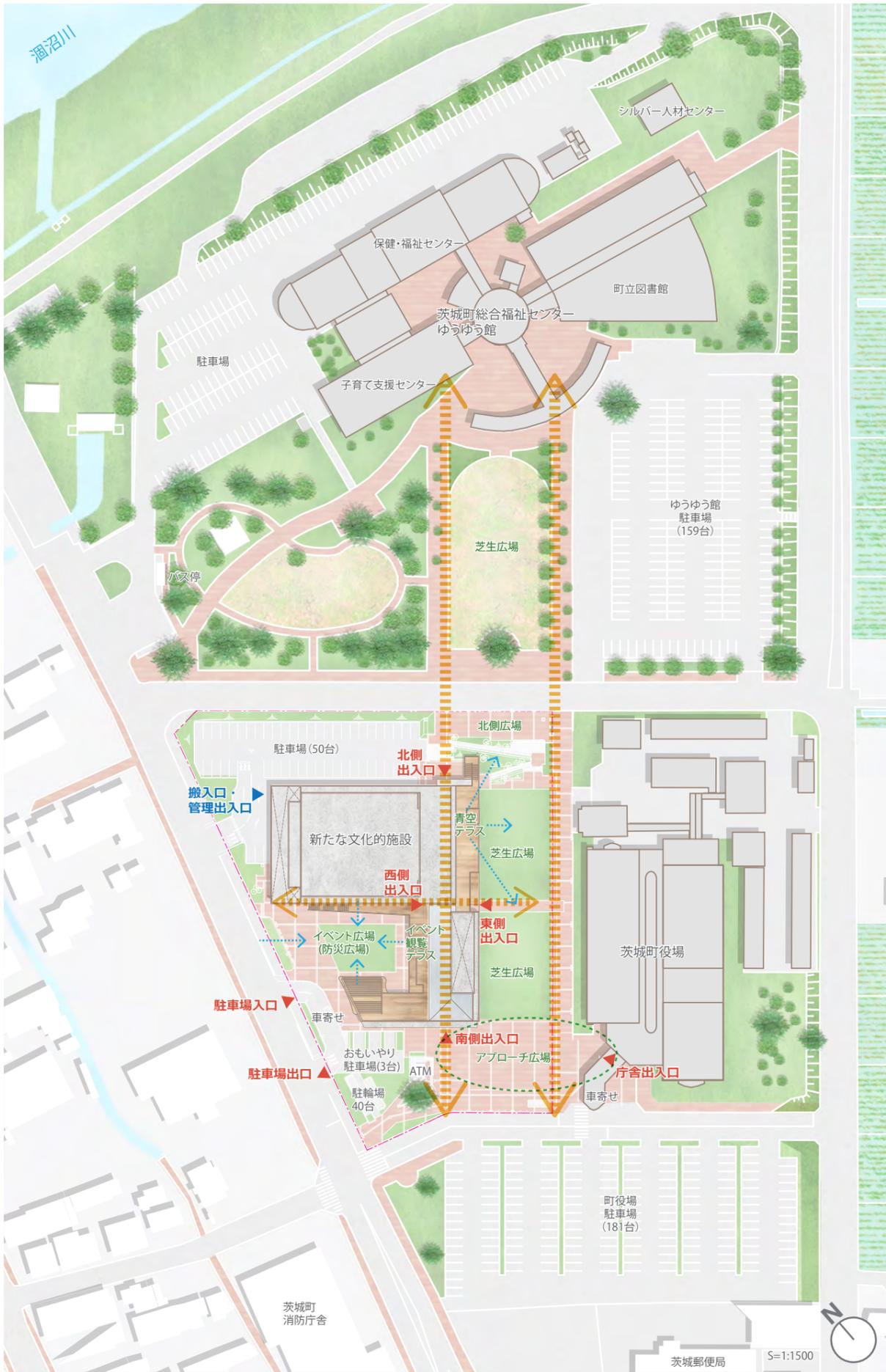
- 受電方式：三相 3 線 6,600V 50Hz 1 回線

【防災設備概要】

- 排煙方式：自然排煙、機械排煙 (ホール、ロビー)
- その他：非常照明、誘導灯、自動火災報知設備 自家発電設備、非常放送設備

【舞台関連設備】

- 〈ホール〉
- 客席形式：ロールバックチェア 297 席 スタッキングチェア 195 席 合計 492 席
- 客席寸法：前後間隔 950mm、幅 520mm
- 舞台形式：プロセニウム形式
- 舞台寸法：間口 16.0m×奥行 9.3m
- プロセニウム高さ：7.2m
- 舞台機構：音響反射板、吊物バトン、照明バトン、客席迫、他
- 舞台照明：照明操作卓、照明器具、調光制御盤、他
- 舞台音響：音響操作機器、メインスピーカー、インフィルスピーカー、固定はね返りスピーカー、ワイヤレスマイク、他



2本のストリートを「幹空間」として、 アクティビティ（活動・活気）を高める

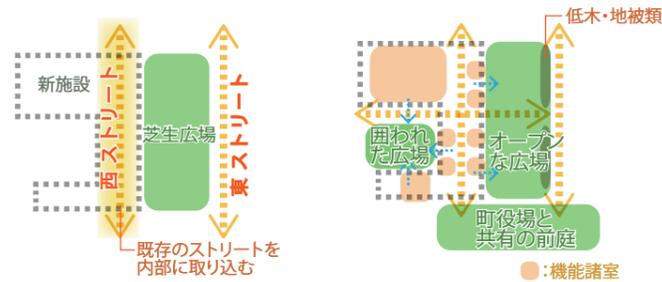
「町役場」と「ゆうゆう館」をつなぐ外部空間は、既に「いばらきまつり」の会場として町民の記憶に残っています。よって、様変わりさせるのではなく、潜在的魅力を引き出すように配置・動線計画を考えます。

「ゆうゆう館」前広場の2本の歩道を町役場前まで伸ばし、エリア全体の「幹空間（ストリート）」と見立てます。

「町役場」⇄「ゆうゆう館」約220mの間にアクティビティを生み出すため、

西側：かがやきストリートをその途上に置き、にぎわいのある中継地点として、日常の居場所利用を促します。

東側：ストリートに沿って、低木・地被類を混植し、四季折々の草花を楽しめる歩行空間とします。



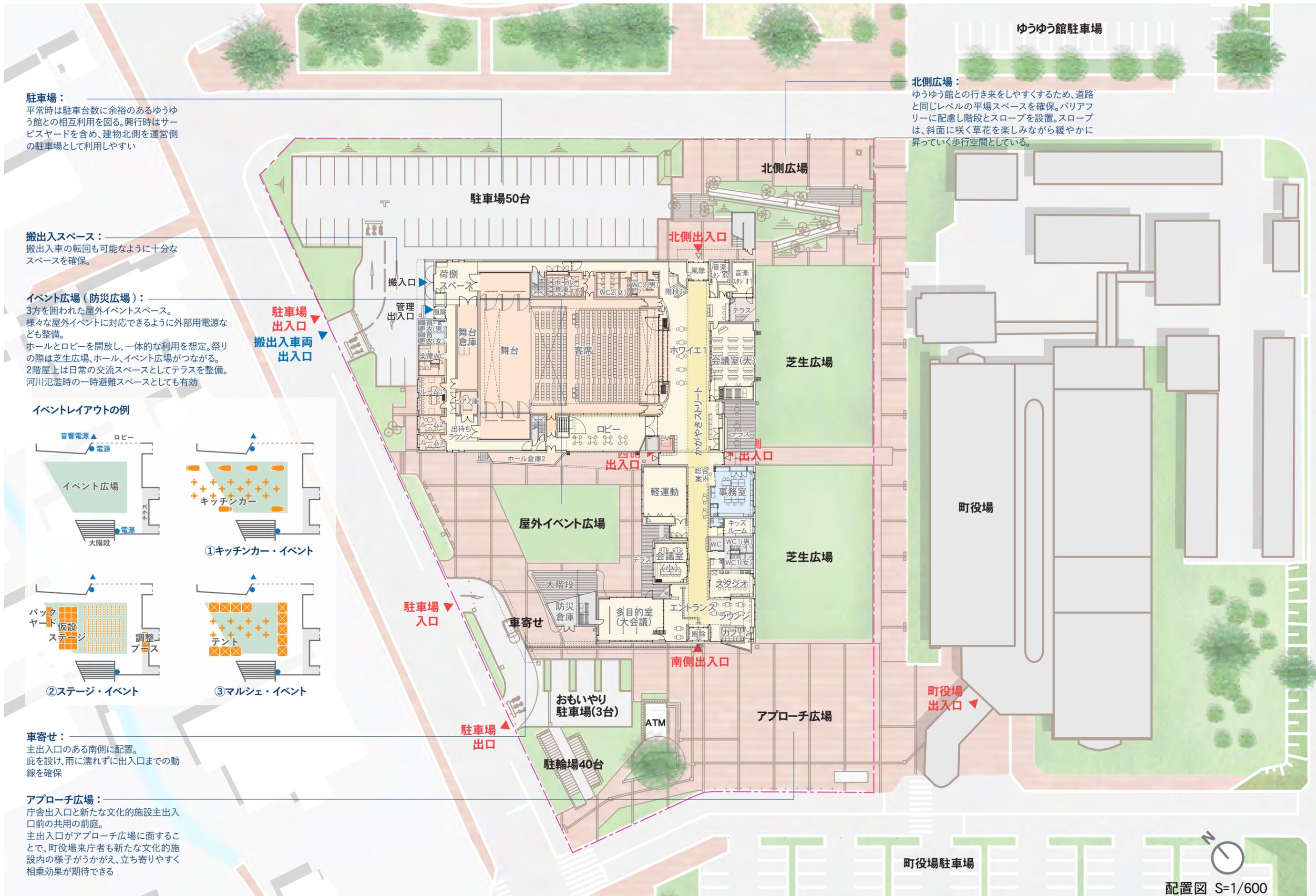
建築群をつなぐ、 欧米の都市の広場づくりにも似て

にぎわいのある広場は、建築の間の外部空間を上手に活用し、ふれあいの舞台として、町の価値を高めています。

立寄りたくなるにぎわい広場は、世界的にみても、幅30m程度までが多く、例えば、米ボストンのクインシーマーケットにある広場サウスマーケットストリートの幅は約30m。樹列がほどよい距離感と潤いある魅力を醸し出し、世代を継いで市民の憩いとふれあいの場となっています。

まさに、新施設と町役場との間隔は、30m。敷地のポテンシャルを最大限活かしつつ手を加えることで、魅力ある外部空間のモデルに仕立て上げます。



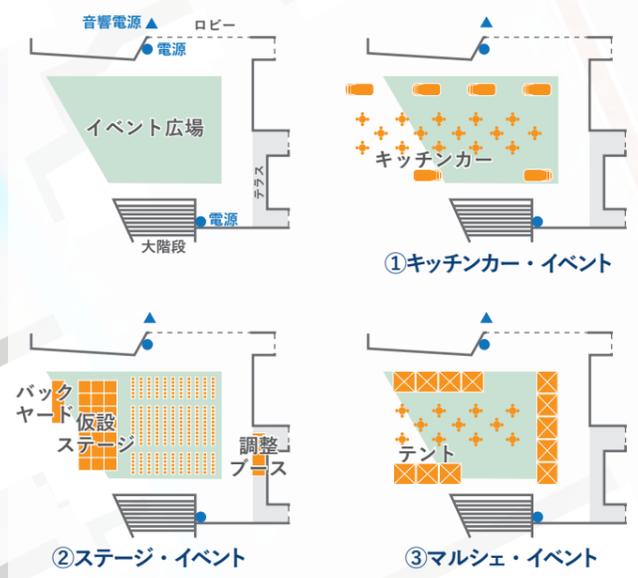


駐車場：
 平常時は駐車台数に余裕のあるゆうゆう館との相互利用を図る。興行時はサービスマンを含め、建物北側を運営側の駐車場として利用しやすい

搬出入スペース：
 搬出入車の転回も可能なように十分なスペースを確保。

イベント広場（防災広場）：
 3方を囲われた屋外イベントスペース。様々な屋外イベントに対応できるように外部用電源なども整備。
 ホールとロビーを開放し、一体的な利用を想定。祭りの際は芝生広場、ホール、イベント広場がつながる。2階屋上は日常の交流スペースとしてテラスを整備。河川氾濫時の一時避難スペースとしても有効

イベントレイアウトの例



車寄せ：
 主出入口のある南側に配置。庇を設け、雨に濡れずに出入口までの動線を確認

アプローチ広場：
 庁舎出入口と新たな文化的施設主出入口前の共用の前庭。主出入口がアプローチ広場に面することで、町役場来庁者も新たな文化的施設内の様子が見え、立ち寄りやすく相乗効果が期待できる

北側広場：
 ゆうゆう館との行き来をしやすいように、道路と同じレベルの平地スペースを確保。バリアフリーに配慮し階段とスロープを設置。スロープは、斜面に咲く草花を楽しみながら緩やかに昇っていく歩行空間としている。

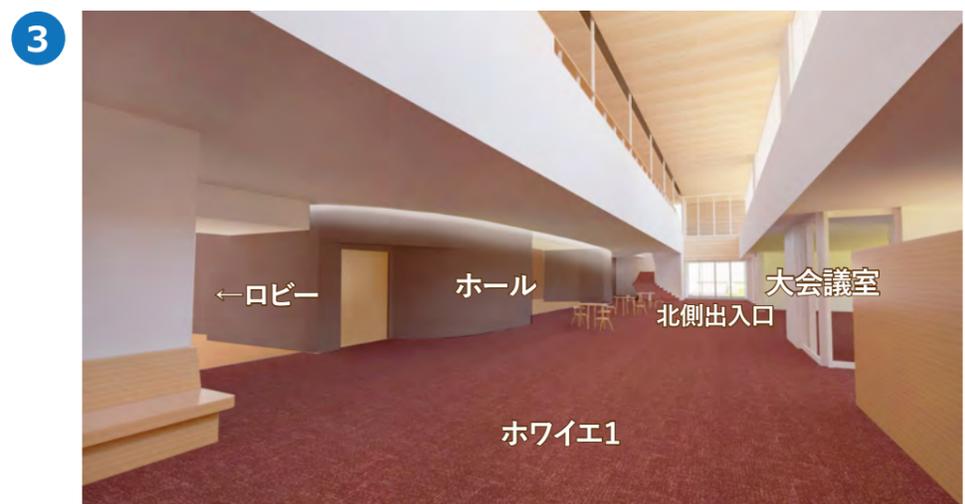




1 エントランスホールよりかがやきストリートをみたイメージ



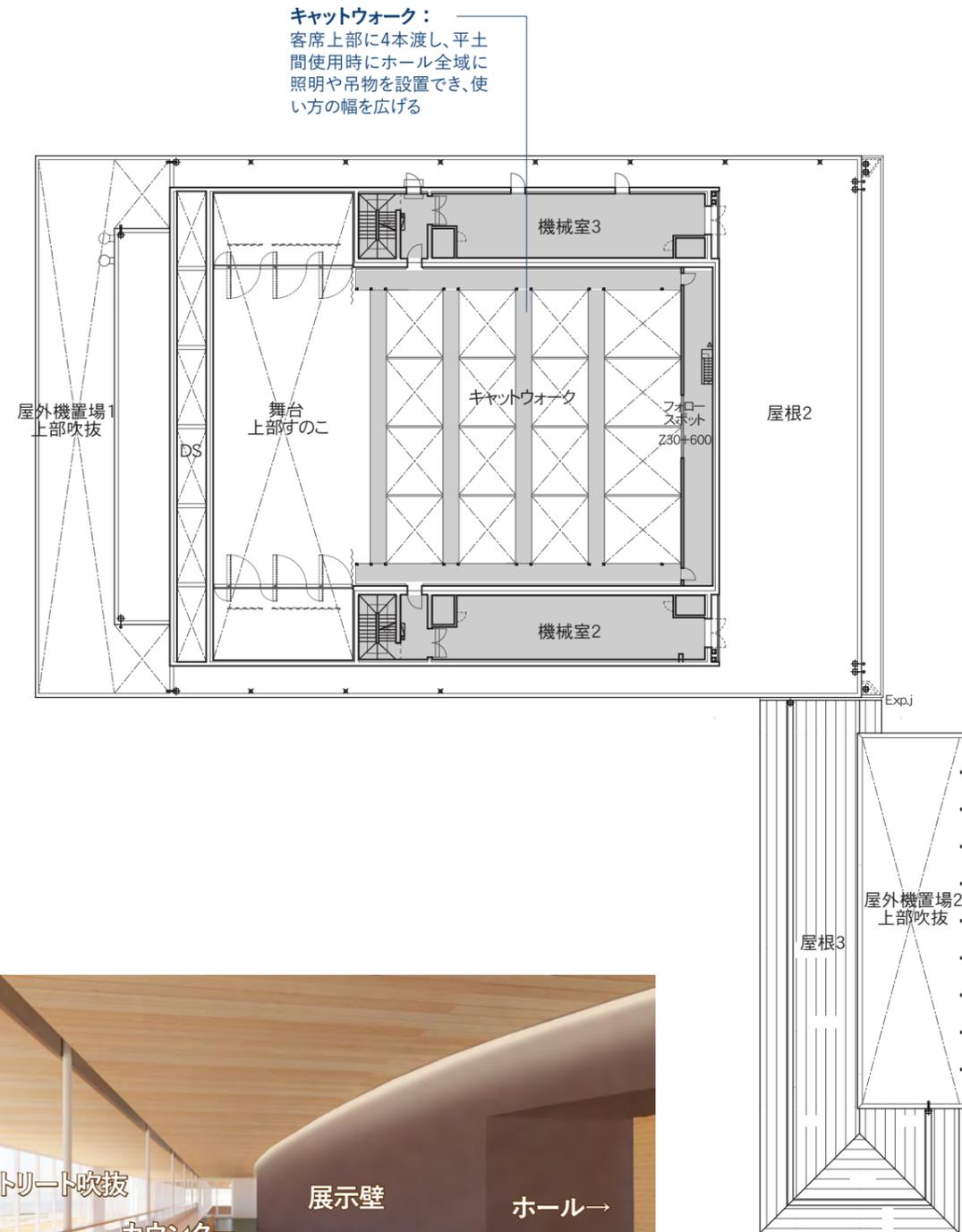
2 カフェ・ラウンジイメージ



3 ホワイエ1イメージ



2階平面図 S=1/400

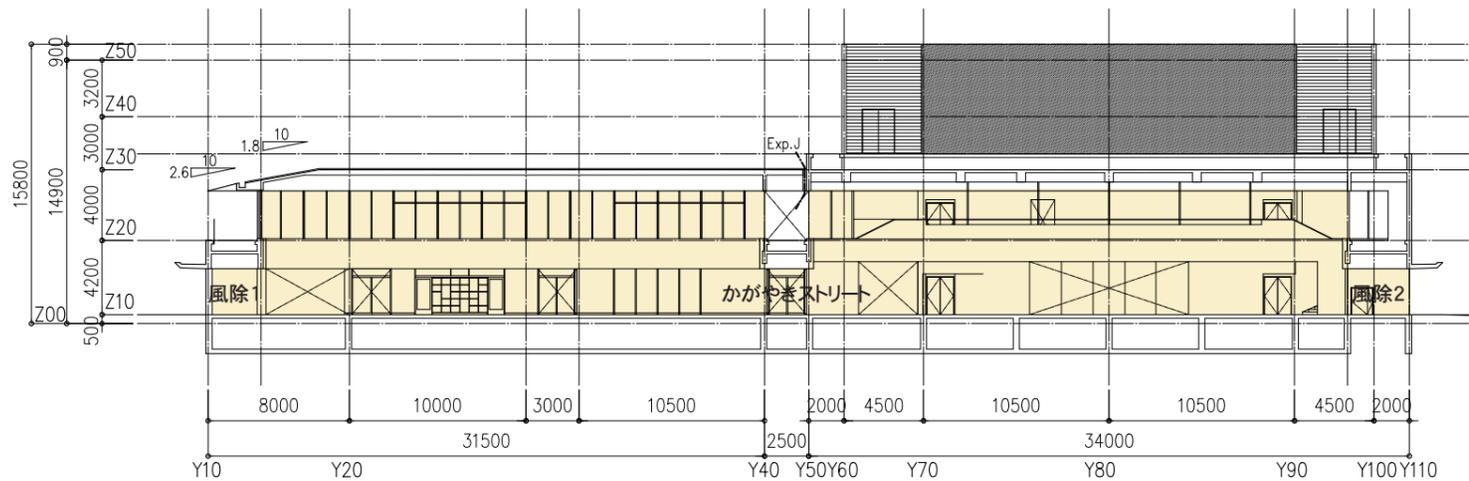


3階平面図 S=1/400

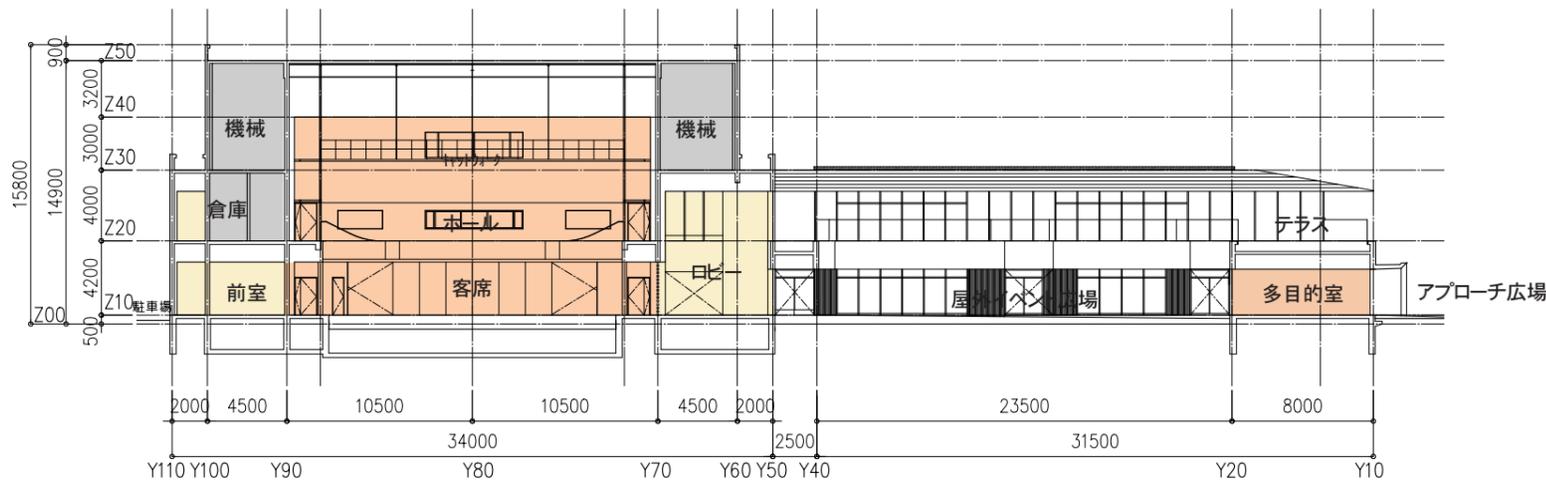
4



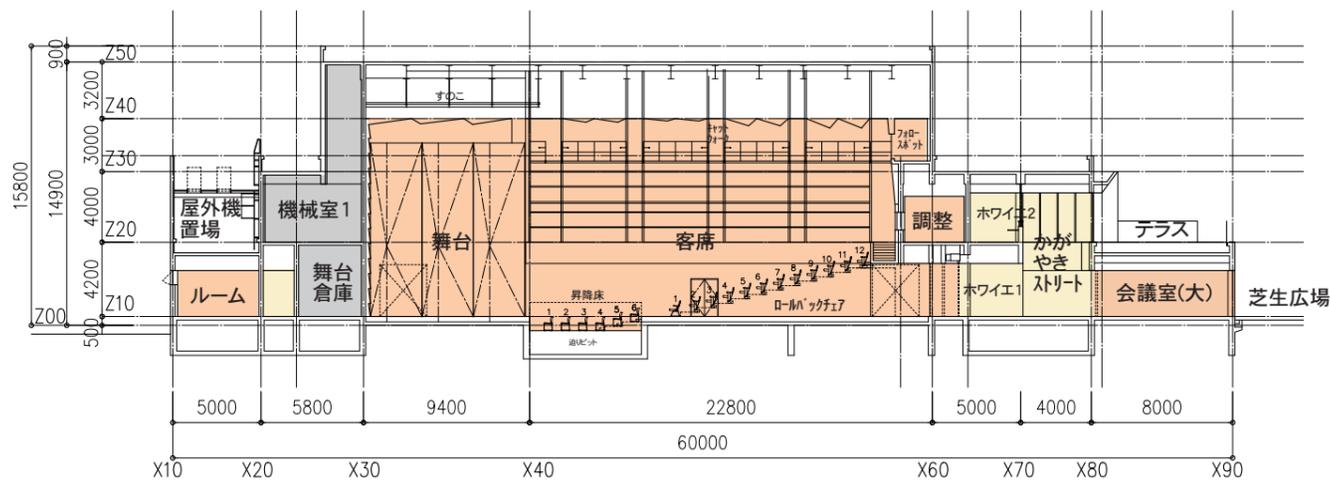
2階ホワイトエ2イメージ



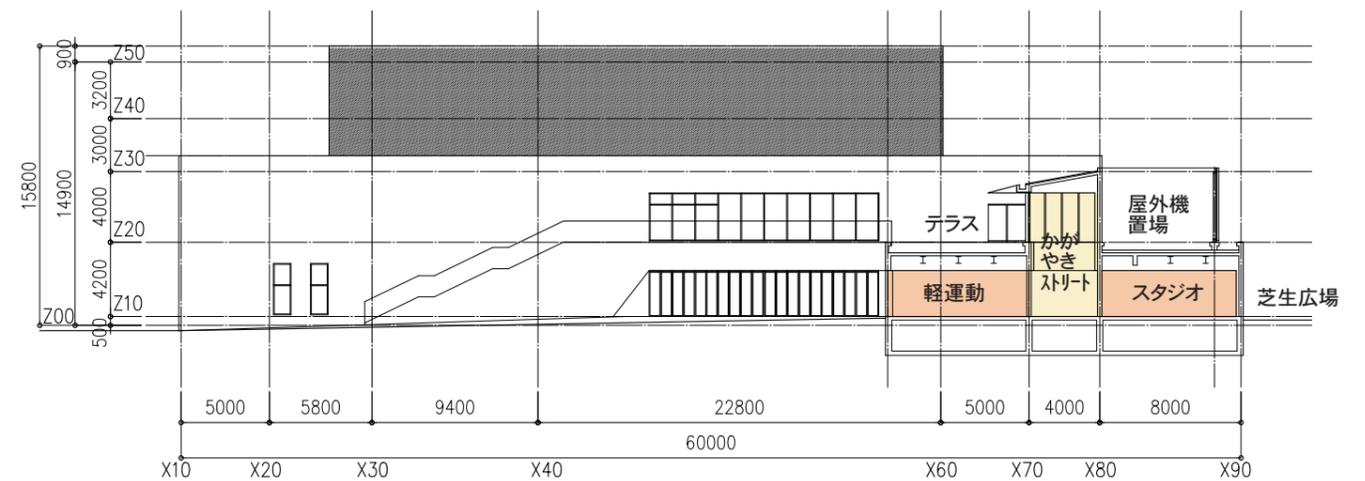
断面図1



断面図2



断面図3



断面図4 S=1/400

合理的な断面計画

階高は極力抑えて躯体ボリュームを減らします。パラペットの高さは水上側で適切な防水高さを確保して漏水を防止し、建物の長寿命化に配慮します。かがやきストリートとロビーは吹抜けとすることで象徴的な空間として位置付けるとともに、光・風の通り道としても機能します。外壁の大きな開口部の上部には庇を設ける等、日射遮蔽により環境負荷低減を図ります。

敷地の高低差の捉え方とユニバーサルデザイン

町役場の床レベルを基準とします。周辺道路より高くなりますが、擁壁は極力避け、全体でゆるやかにつながる「丘」のイメージとして、誰も拒まない開放性を重視します。ゆうゆう館との間にある車道もゆるやかに擦り付け、舗装材をストリートと同じにして、広場の連続性を高めます。





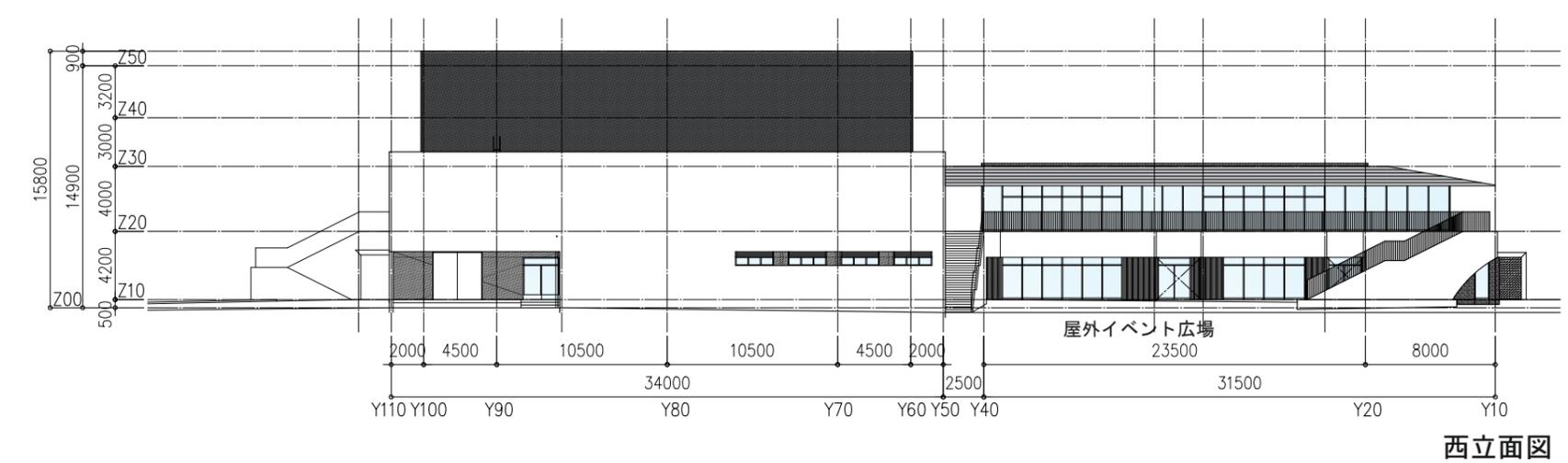
東立面図

周囲に圧迫感を与えないデザイン

「ホール」は2層分(1階+2階)を入れ子形式とすることで、大きな壁面による周囲への圧迫感を軽減します。「諸室」についてもボリュームを分節することで、ひと塊として見えないよう工夫します。外形には凹凸が生まれ、凹部にテラスを配置するなど、外部空間との交わりをつくります。



アプローチ広場からみたイメージ



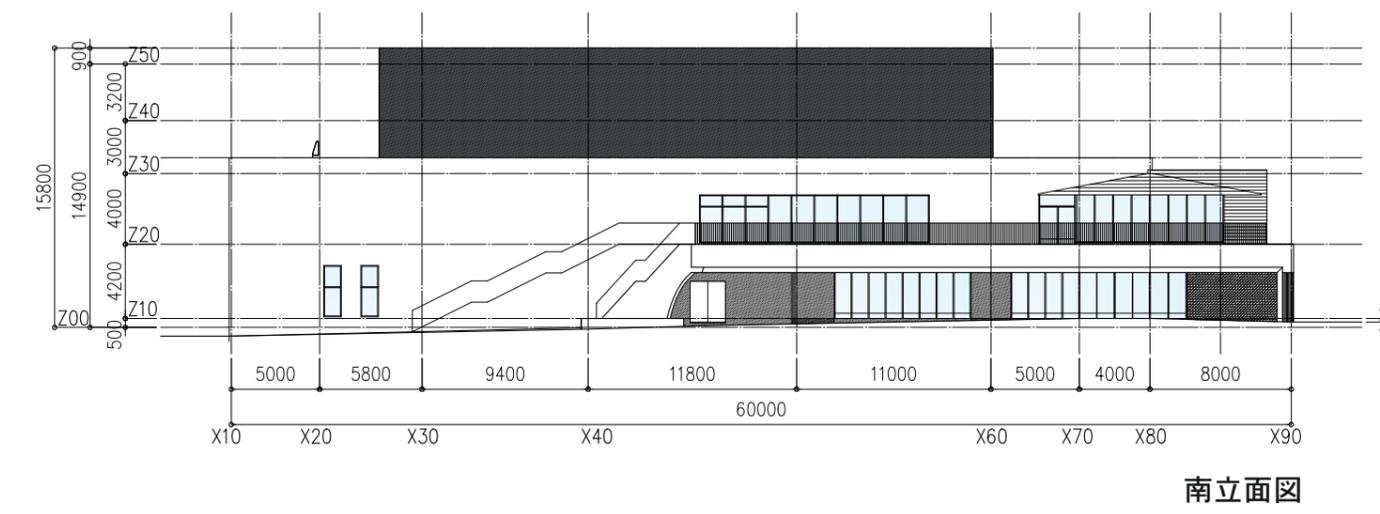
西立面図

施設の長寿命化への配慮

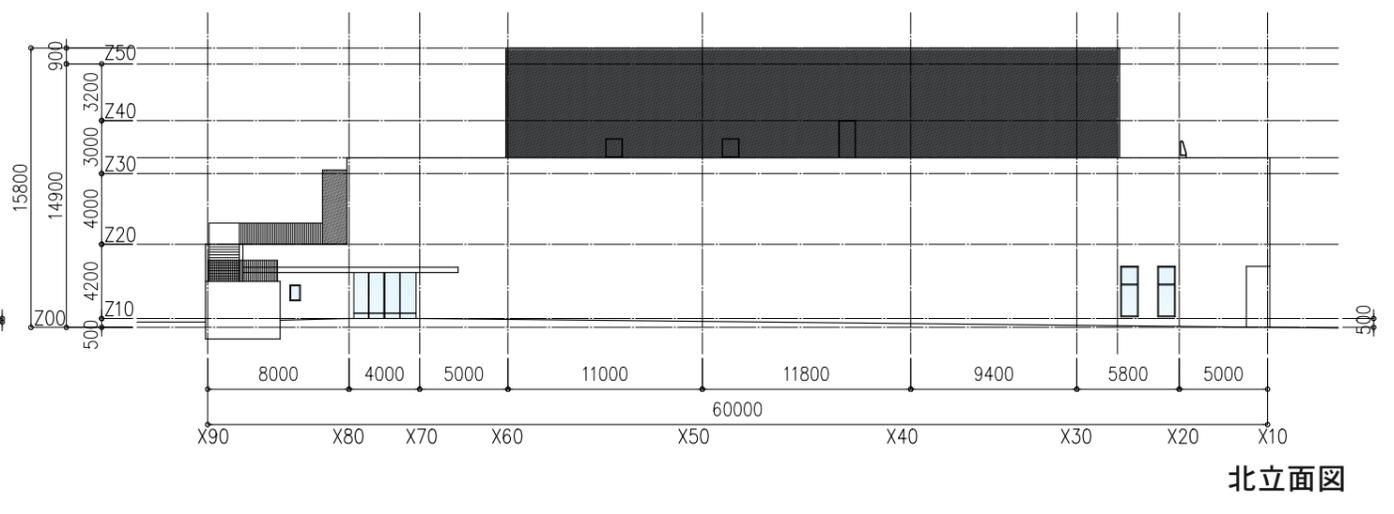
外装仕上には耐久性・耐候性のある材料を選定し、施設の長寿命化に配慮します。また、汚れにくい、汚れの目立ちにくい材料とし、維持管理のしやすさにも留意します。



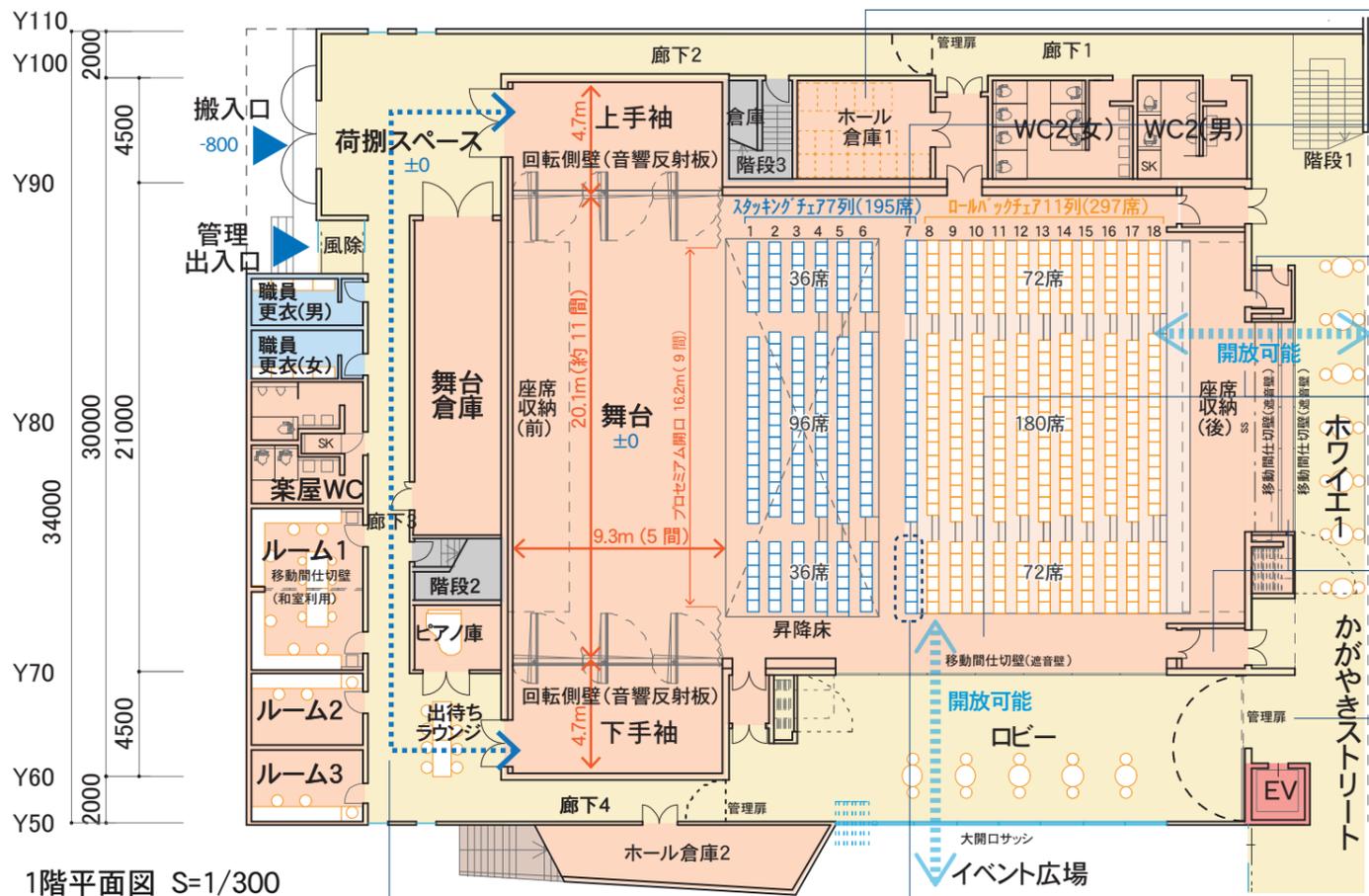
南側からみるエントランスイメージ



南立面図



北立面図



ホール倉庫1:
スタッキングチェア195席の収納スペース

ロールバックチェアの最前列は、スタッキングチェアを並べることで、座席数をできるだけ確保する

ロールバックチェアの背後に緊急時(シャッター降下時)の避難動線を確保

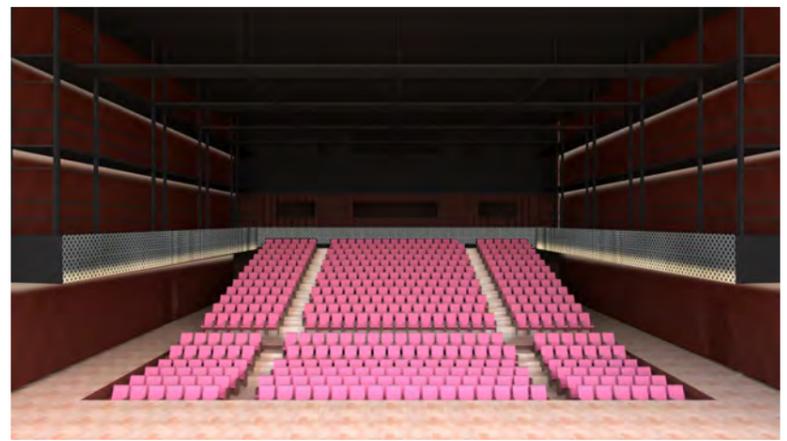
移動間仕切壁を開放することで、ホール⇒ホワイエ⇒会議室(大)⇒芝生広場、ホール⇒ロビー⇒イベント広場の二方向に連続し、一体空間となる

移動間仕切壁は二重とし、ホールとホール外との遮音性を高める。その他ホールの出入口も二重扉を基本とする

ホワイエとかがやきストリートを管理扉により仕切ること、ホール未使用時に簡易な演奏会も行える。ロビーを舞台とした屋外演奏会も可能



上演時の舞台側をみたイメージ



舞台から客席側をみたイメージ

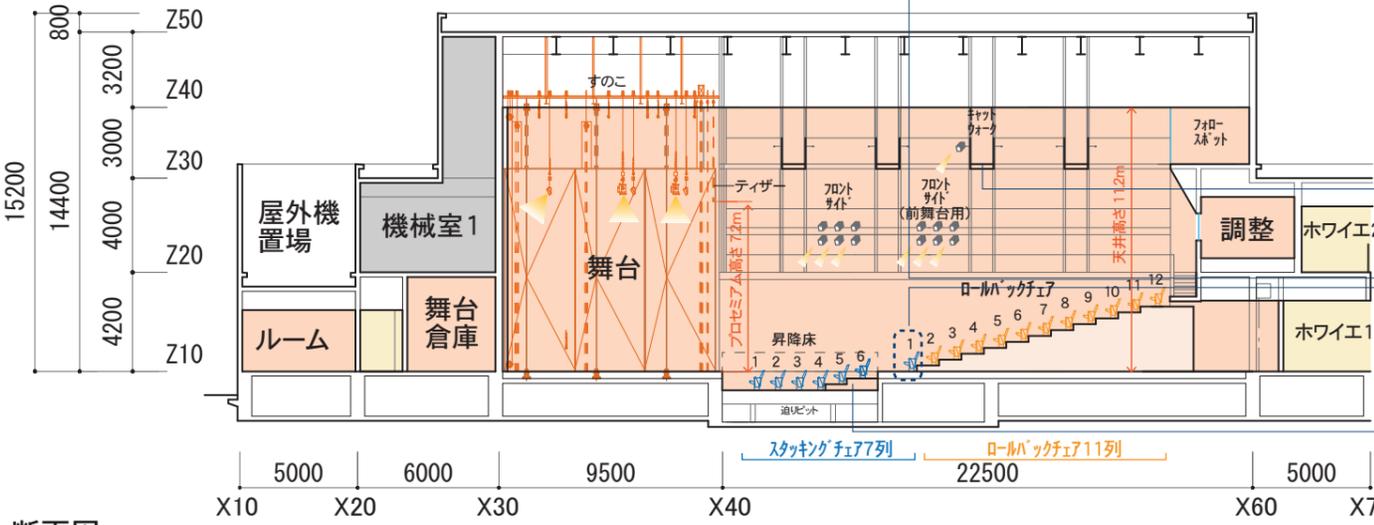
荷捌きスペースと舞台レベルを同一とし、搬入が容易。上手と下手をつなぐ動線、楽屋や倉庫を配置し、運用のしやすさに配慮。興行時は管理扉で管理区分を明確にする。

客席上部の4本のキャットウォークにより、幅広い演目や平土間時のイベント等にも対応しやすい

ロールバックチェアの最前列はスタッキングチェアを並べずに車椅子使用者用客席スペースとして想定

迫り部の5,6列目は舞台の視認性を考慮し、着脱式段床(備品)の設置を検討

1階平面図 S=1/300



断面図

多様な使いこなしができるホール

(座席単位:mm)

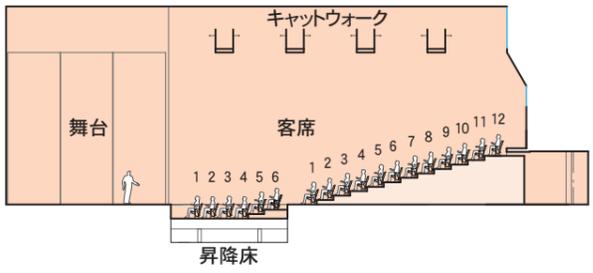
客席数	座席幅	前後間隔
492	520	950

客席は前方を「客席迫り(昇降式の床)」、後方を「ロールバックチェア(移動観覧席)」の構成とします。客席と舞台の境界が無い「平土間」となり、幅広い演目やイベント等に対応します。ホールは後方壁面と側壁面に設置した「移動間仕切壁」を開放することで、ホワイエやロビー、外の広場まで連続した空間となり、「いばらきまつり」など隣接する空間との一体利用を可能にします。

ホールの形状は間口21m×奥行30mのシューボックス型で、生音でも十分に音圧を感じることができ、優れた音響性能を確保します。また、町民主体の利用であることから、わかりやすい動線、舞台設備の操作性にも配慮します。

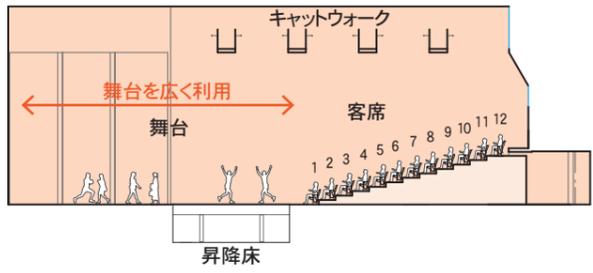
①通常舞台形式 (492席)

合唱、オーケストラ、吹奏楽、太鼓など



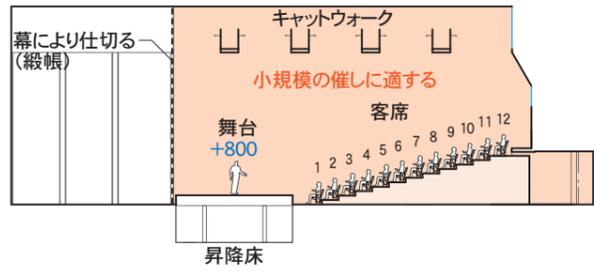
②舞台拡張形式 (297席)

演劇、バレエ、ワークショップなど



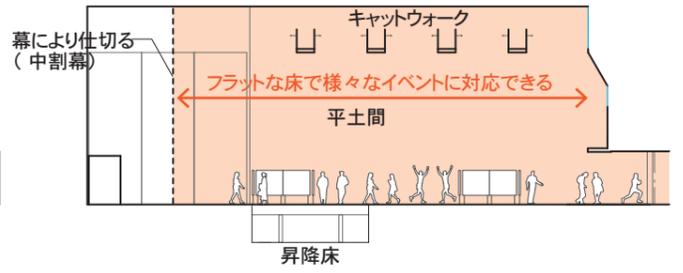
③前舞台形式 (297席)

講演会、ダンス、舞踊など



④平土間形式

展示会、ワークショップ、マルシェなど



環境計画

環境負荷低減のための工夫

1. 建築の外皮性能を高め、空調のピーク負荷を軽減

- ◎**外壁・屋根面の高断熱化**:断熱材を高断熱仕様として外皮性能を高めます。
- ◎**開口部の断熱化**:負荷の大きい窓面はLow-E複層ガラスを採用し、熱負荷を低減します。
- ◎**再生木ウッドデッキ**:屋根面のテラスにウッドデッキを設置し、直達日射を遮蔽することで、空調負荷を低減します。
- ◎**屋根庇**:開口部の多いかがやきストリートは屋根庇により、夏季の直射光を遮蔽し、空調負荷を低減します。

2. 自然エネルギーを有効利用できる建築計画

- ◎**自然通風**:入口・通り道・出口の3点セットを明確に設定、開けやすい窓を効率的に配置
- ◎**自然採光**:天光光と反射光を巧みに組み合わせ、豊かで柔らかな光を取り込みます。

3. 一次消費エネルギーを効率的に削減する設備計画

- ◎**高効率・高耐久設備機器**による合理的削減
- ◎**節水器具**:水の使用量を削減
- ◎**雨水利用**:トイレ洗浄水に利用

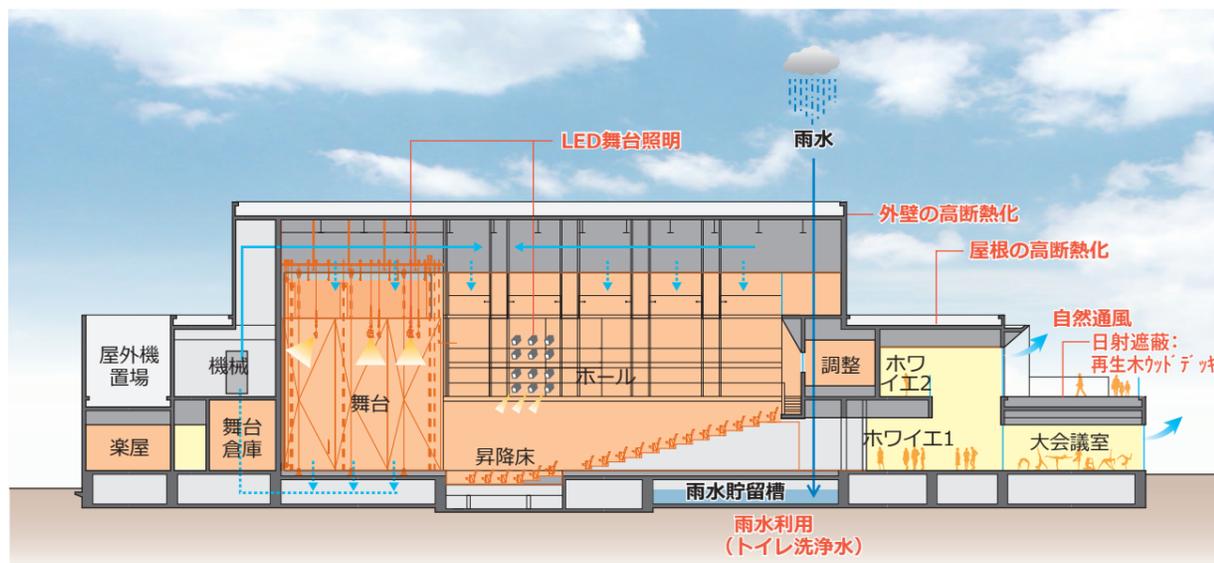
4. 施設の特徴を踏まえた合理的な空調設備

- ①**空間の特性に応じた空調計画**
 - ◎**ホール**:空冷ヒートポンプ式空調機を採用。
 - ◎**諸室**:部屋ごとにOn/Offや温度調整が可能な個別空調方式を採用します。
 - ◎**かがやきストリート**:空冷ヒートポンプエアコンによる居住域空調とし、吹抜天井付近の不要な空調を無くします。
- ②**快適性と省エネに配慮した照明計画**
 - ◎**100%LED照明**:トイレ等の人感センサーなど、こまめに自動制御します。舞台照明もLEDを採用します。

5. 「ZEB Ready」の実現

再生可能エネルギーを除き、基準消費量から50%以上の一次エネルギー削減を実現します。

- ◎**建築**:屋根、外壁、窓面の高断熱化
- ◎**電気**:LED照明、人感センサー、明るさ検知制御の採用
- ◎**機械**:高効率空調機、全熱交換器等の採用



外構計画

地域に親しまれる花と緑

1. 季節感を感じられる外部空間

- ◎四季折々の花が咲く種類を多く選定
- ◎低木、地被類を主体に構成

2. 維持管理のしやすさに配慮

- ◎**芝**:スプリンクラー設備による自動散水
暗渠排水の設置により水溜まりの防止
- ◎**その他**:各所に散水用、清掃用の水栓を設置
適所に自動灌チューブを設置

3. 歩きやすい舗装材

- ◎**インターロッキング舗装**:
嵌合型により段差発生を抑制
表面のリブ形状による防滑性
日射反射率が高く、地表面温度上昇を抑える



植樹予定の主な種類

芝類



低木



地被類



中木

